令和５年度　第５回広島市感染症対策協議会

【日　時】　令和５年 11 月 20 日（月）19:00～20:00
【場　所】　広島市役所 14 階第７会議室
【出席者】　小林　正夫、坂口　剛正、石川　暢久、吉岡　宏冶、髙橋　宏明、佐藤　貴、
　　平賀　正文、増田　裕久、梶梅　輝之、長岡　義晴、岡野　里香、阿部　勝彦

１　感染症に関する最近の情報

⑴　新型コロナワクチン接種について

・令和５年秋開始接種（令和５年９月 20 日～令和６年３月 31 日）を実施中
11 月の集団接種会場は以下のとおり

集団接種会場	使用ワクチン	最大予約枠数
日本通運㈱広島支店西広島倉庫（西区）	ファイザー社製 XBB 対応ワクチン	474
	ノババックスワクチン	100
イオンモール広島祇園（安佐南区）	モデルナ社製 XBB 対応ワクチン	340
アクロスプラザ高陽（安佐北区）	モデルナ社製 XBB 対応ワクチン	485

・初回接種の使用ワクチンにモデルナ社製のオミクロン XBB.1.5 対応１価ワクチンを追加
（追加接種の使用ワクチンには９月末で追加済）
・令和５年秋開始接種の接種回数は 156,664 回、うち高齢者は 112,420 回（接種率 36.5%）（令和５年 11 月５日現在）
（委員意見）
・今後もワクチン接種率の向上に努めてほしい。

⑵　インフルエンザの発生状況について（資料１ P1～12）

第 42 週（10 月 16 日～10 月 22 日）の広島市感染症発生動向調査において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が 14.33 人と注意報レベルの基準である 10 人を上回ったため、10 月 25 日付けで市内のインフルエンザ患者数が過去 10 年のうち最速で注意報レベルを超えた旨の広報を行った。また、市内学校におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等については、第 44 週に 35 件の報告があり、今後さらに流行が拡大することが予想される。

令和５年 11 月２日、国は抗インフルエンザウイルス薬及びインフルエンザウイルス抗原検出キットについて、安定的な供給を図ることが必要であるため、特定の医療機関や薬局への偏在が発生しないよう、管内の医療機関や卸売販売業者に対して周知するよう通知があった。

また、今年度の季節性インフルエンザワクチンの供給量については、十分な量が見込まれているものの、医療機関に対して、必要量に見合う量のワクチンを購入するよう呼びかけている。

本市では、引き続きホームページ等を通じて 65 歳以上の市民を対象としたインフルエンザの定期予防接種について周知を図っていくとともに、市民に対して手洗いや咳エチケットの励行など、感染対策を徹底するよう呼びかけていく。

（委員意見）
・今後も発生状況に注視するとともに、インフルエンザウイルス抗原検出キット等の安定的な供給について県と情報共有をお願いしたい。

⑶　本市における梅毒の発生状況について（資料１ P13～25）

本市における梅毒報告件数は、2015 年以降年々増加し、2022 年の累計報告数は 317 件と 1999 年以降の発生動向調査において最多の報告数であった。令和５年第 44 週（10 月 30 日～11 月５日）現在の報告数は 246 件と昨年と同様に高い水準で推移しており、９月には先天梅毒の届出もあった。患者の男女別では、男性は 20～50 代、女性は 20 代が最も多くなっている。

推定感染経路の約９割が性的接触で、そのうち、男性は 61%、女性は 46%に６か月以内の性

風俗産業の利用歴または従事歴があることから、性風俗産業を含めた啓発が重要である。

本市では、「世界エイズデー」の取組みの一環として、臨時のHIV・梅毒検査を12月1日(金)の夜間に中保健センターで、9日(土)午前中に南保健センターで実施するほか各区保健センターにおいてもそれぞれ実施する。

今後もホームページやSNS等により、市民に対し性感染症予防について普及啓発を行っていくこととする。

(委員意見)

・今後の発生状況に注視し、性感染症予防について普及啓発に努めてほしい。

２　10月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料２、３)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

区分	病　　名	令和5年10月分	令和5年11月分
		報告日 10/2 ～11/5	報告日 11/6～11/14 現在
２類	結核	5人 (結核4人、潜在性結核1人)	5人 (結核4人、潜在性結核1人)
４類	レジオネラ症	2人 (10/4, 10/6)	
	つつがむし病	1人 (10/27)	3人 (11/6, 11/8, 11/9)
	E型肝炎		1人 (11/9)
５類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	１人(10/20)	
	急性脳炎	2人(10/5, 11/1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(10/17)	
	後天性免疫不全症候群	1人(11/10)	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3人(11/6, 11/10, 11/13)
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1人(11/7)
	梅毒	22人 (2人(10/2), 10/10, 10/12, 2人(10/13), 10/16, 3人(10/17), 3人(10/19), 3人(10/23), 10/25, 10/28, 2人(10/31), 11/1, 11/2)	4人 (2人(11/10), 11/13, 11/14)

３　全数把握対象感染症の発生状況《公開》

(　)は届出日

４　その他《公開》

次回開催予定日　令和6年1月15日(月)　14階第7会議室

【資料】

資料１：最近の感染症情報

資料２：10月の感染症の概要

資料３：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（１１月分）

令和５年１１月２０日

１　患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は4,131人で、前月比1.10とやや増加した。

インフルエンザ、咽頭結膜熱は大きく増加、流行性角結膜炎は増加、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや増加、感染性胃腸炎はほぼ横ばい、突発性発しんはやや減少、手足口病、ヘルパンギーナは減少、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、ＲＳウイルス感染症は大きく減少した。

(2) 特記事項

● 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、9月中旬から減少が続いているが、高齢者施設等での集団発生は継続して報告されており、引き続き注意が必要である。手洗い、マスクの効果的な場面での着用、換気など、一人一人が身近でできる感染対策を続けることが大切である。

● インフルエンザは、第42週（10月16日～22日）に注意報レベル（定点当たり10）を超えた（図1）。また、今シーズンのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は、11月12日までに159件報告されている。手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気など感染予防対策を徹底することが重要である。

● 咽頭結膜熱は小児を中心に夏季に流行する感染症であるが、10月中旬から増加しており、第45週（11月6日～12日）には、1999年の感染症法施行以降で最多となる定点当たり2.52人の報告があった（図2）。全国的にも増加しており注意が必要である。手洗いの励行、タオルの共用は避けるなど感染予防対策を徹底することが重要である。

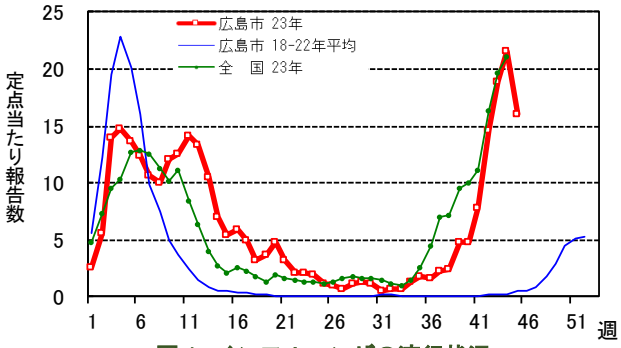

図１ インフルエンザの流行状況

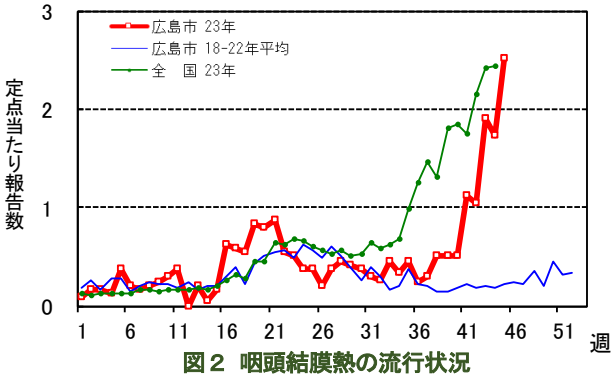

図２ 咽頭結膜熱の流行状況

● Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しており、第44週（10月30日～11月5日）には、1999年の感染症法施行以降で最多となる定点当たり5.04人の報告があった。患者との濃厚な接触を避けることや、手洗いなどの感染予防対策が有効である。

● つつが虫病は第43週（10月23日～29日）に今年初めての報告があり、11月12日時点での累計報告数は4件になった。本市では、例年、11～12月の報告が多く、注意が必要である。感染を予防するためには、山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着用するなど肌の露出を避け、ツツガムシに咬まれないようにすることが重要である。

(3) １０月の１類～５類感染症（全数報告）患者発生数

１類感染症：なし
２類感染症：結核5件（患者:4件、潜在性結核:1件）
３類感染症：なし
４類感染症：つつが虫病 1件、レジオネラ症 2件
５類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、急性脳炎 2件、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、梅毒 22件

(4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎・・・【流行始まり】、
インフルエンザ、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎・・・【流行中】
梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。
新型コロナウイルス感染症・・・発生動向に注意が必要である。

２　検査情報

10 月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	8 月	1 人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	9 月	1 人
咽頭結膜熱	アデノウイルス 3 型	8 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	8 月	1 人
	アデノウイルス 64 型	8 月	1 人
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B5 型	8 月	1 人
その他の神経系疾患(脳脊髄炎)	ヒトヘルペスウイルス 6 型	9 月	1 人

7 人の患者から 7 種類のウイルス 7 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H3)型、同 A(H1N1)2009 型、アデノウイルス 3 型、同 56 型、同 64 型、コクサッキーウイルス B5 型、ヒトヘルペスウイルス 6 型各 1 株であった。

３　感染症法の５類全数把握薬剤耐性菌感染症患者から分離された菌株解析結果（4～10 月分）

(1)　カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症患者

届出月	年齢	区	菌　種	カルバペネマーゼ遺伝子
6 月	95	中	*Enterobacter cloacae*	検出せず
6 月	82	南	*Klebsiella pneumoniae*	検出せず
6 月	62	南	*Klebsiella aerogenes*	検出せず
6 月	80	東	*Escherichia coli*	bla_{NDM-5}
7 月	77	南	*Escherichia coli*	検出せず
8 月	70	南	*Escherichia coli*	検出せず
8 月	79	西	*Klebsiella pneumoniae*	bla_{IMP-6}

※検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型：KPC,IMP,NDM,VIM,OXA-48,GES,KHM,SMB,IMI

6 月に 4 件、7 月に 1 件、8 月に 2 件の届出があり、分離菌株は、bla_{NDM-5}保有の *Escherichia coli* 及び bla_{IMP-6}保有の *Klebsiella pneumoniae* が各 1 株、カルバペネマーゼ遺伝子が検出されなかった *Escherichia coli* が 2 株、*Enterobacter cloacae*、*Klebsiella pneumoniae*、*Klebsiella aerogenes* が各 1 株であった。

(2)　バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症患者

届出月	年齢	区	菌　種	耐性遺伝子
4 月	73	中	*Enterococcus faecium*	*vanA*
7 月	65	中	*Enterococcus faecium*	*vanA*
8 月	69	中	*Enterococcus raffinosus*	*vanA*

4 月、7 月及び 8 月に各 1 件届出があり、分離菌株は *vanA* 保有の *Enterococcus faecium* が 2 株、*vanA* 保有の *Enterococcus raffinosus* が 1 株であった。

5類感染症定点情報
（令和5年10月解析分）

1．週報対象（第40週～第44週）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↑	2,420	67.62	流→
2	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	↓	525	14.67	
3	RSウイルス感染症	↓	8	0.34	
4	咽頭結膜熱	↑	147	6.32	流→
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	334	14.34	流→
6	感染性胃腸炎	→	298	12.77	流↗
7	水痘		8	0.34	
8	手足口病	↘	225	9.57	
9	伝染性紅斑		2	0.08	
10	突発性発しん	↘	24	1.03	
11	ヘルパンギーナ	↘	79	3.35	
12	流行性耳下腺炎		4	0.17	
13	急性出血性結膜炎		－	－	
14	流行性角結膜炎	↗	42	5.27	
15	細菌性髄膜炎		－	－	
16	無菌性髄膜炎		1	0.14	
17	マイコプラズマ肺炎		－	－	
18	クラミジア肺炎		－	－	
19	感染性胃腸炎（ロタウイルス）		－	－	

2．月報対象（10月）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	→	32	3.56
2	性器ヘルペスウイルス感染症		9	1.00
3	尖圭コンジローマ		7	0.78
4	淋菌感染症	↗	18	2.00
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↘	13	1.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		－	－

発生記号

前月と比較しておおむね1：2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1：1．5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1：1．1～1．5の増減	↗	↘
ほぼ横ばい（発生件数少数のものを含む）	→	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数（令和5年10月分）

第40週～第44週(10月2日～11月5日)報告分

類型		疾　患　名	広島市		全　国	
			報告数	累積	報告数	累積
一類	1	エボラ出血熱	－	－	－	－
	2	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	3	痘そう	－	－	－	－
	4	南米出血熱	－	－	－	－
	5	ペスト	－	－	－	－
	6	マールブルグ病	－	－	－	－
	7	ラッサ熱	－	－	－	－
二類	8	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	9	結核	5	106	1,585	12,081
	10	ジフテリア	－	－	－	－
	11	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－
	12	中東呼吸器症候群	－	－	－	－
	13	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－
	14	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－
三類	15	コレラ	－	－	－	2
	16	細菌性赤痢	－	－	7	35
	17	腸管出血性大腸菌感染症	－	14	515	3,344
	18	腸チフス	－	－	4	35
	19	パラチフス	－	－	－	8
四類	20	E型肝炎	－	1	41	460
	21	ウエストナイル熱	－	－	－	－
	22	A型肝炎	－	－	9	47
	23	エキノコックス症	－	－	1	12
	24	黄熱	－	－	－	－
	25	オウム病	－	－	1	8
	26	オムスク出血熱	－	－	－	－
	27	回帰熱	－	－	－	21
	28	キャサヌル森林病	－	－	－	－
	29	Q熱	－	－	－	－
	30	狂犬病	－	－	－	－
	31	コクシジオイデス症	－	－	－	2
	32	エムポックス	－	1	10	209
	33	ジカウイルス感染症	－	－	1	1
	34	重症熱性血小板減少症候群	－	2	11	128
	35	腎症候性出血熱	－	－	－	－
	36	西部ウマ脳炎	－	－	－	－
	37	ダニ媒介脳炎	－	－	－	－
	38	炭疽	－	－	－	－
	39	チクングニア熱	－	－	3	7
	40	つつが虫病	1	1	20	137
	41	デング熱	－	2	25	138
	42	東部ウマ脳炎	－	－	－	－
	43	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）	－	－	－	－
	44	ニパウイルス感染症	－	－	－	－
	45	日本紅斑熱	－	3	128	474
	46	日本脳炎	－	－	2	4
	47	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－
	48	Bウイルス病	－	－	－	－
	49	鼻疽	－	－	－	－
	50	ブルセラ症	－	－	1	2
	51	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－
	52	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－
	53	発しんチフス	－	－	－	－
	54	ボツリヌス症	－	－	－	－
	55	マラリア	－	－	3	25
	56	野兎病	－	－	－	－
	57	ライム病	－	－	3	29
	58	リッサウイルス感染症	－	－	－	－
	59	リフトバレー熱	－	－	－	－
	60	類鼻疽	－	－	－	－
	61	レジオネラ症	2	31	257	1,944
	62	レプトスピラ症	－	－	13	45
	63	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－
五類	64	アメーバ赤痢	－	5	29	414
	65	ウイルス性肝炎	－	6	14	204
	66	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	9	261	1,750
	67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－	－	5	50
	68	急性脳炎	2	5	81	495
	69	クリプトスポリジウム症	－	－	3	11
	70	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	2	13	133
	71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4	93	711
	72	後天性免疫不全症候群	1	9	88	786
	73	ジアルジア症	－	－	1	35
	74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	3	45	466
	75	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	2	15
	76	侵襲性肺炎球菌感染症	－	13	171	1,477
	77	水痘（入院例に限る。）	－	4	40	318
	78	先天性風しん症候群	－	－	－	－
	79	梅毒	22	246	1,419	12,679
	80	播種性クリプトコックス症	－	－	20	147
	81	破傷風	－	－	14	92
	82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－
	83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	7	12	105
	84	百日咳	－	2	131	828
	85	風しん	－	－	－	11
	86	麻しん	－	－	－	25
	87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	2	13
新型インフル	88	新型コロナウイルス感染症　注1）注2）	－	371,198	－	33,778,575

注1）全国データは、厚生労働省HPから引用（空港検疫及びチャーター便帰国者を除く(2023年5月8日時点速報値)）。
注2）広島市、全国の累積は2020年から2023年5月7日までの合計。